

学校経営にあたって

(1) 地域と児童について

令和3年4月、豊成地区の少子化に伴い、146年の歴史がある豊川小学校と、140年の歴史がある豊岡小学校が統合し、学級数9（通常学級6、特別支援学級3）、児童数104名の豊成小学校が開校した。本校は大仙市の東部に位置し、学区の西側を県道角館六郷線、東側を県道50号線が南北に走っている。

地域には、県内で唯一の国宝である線刻千手観音等鏡像を有する水神社がある。また、どんぱん節の元歌である「円満造甚句」の発祥の地でもあり、豊かな地域素材に恵まれている。

豊岡地区から通学する児童の約90%はスクールバスを利用している。子どもたちは、素直で明るく優しさがあふれ、学年・男女の枠を越えて、仲がよい。また、様々な活動に、協力し合いながら誠実に取り組むことができる。保護者や地域の方々には、教育への関心が高く大変協力的であり、本校の教育活動を推進する上で大きな力となっている。

(2) 目指す学校像

校訓 「こころ豊かに ゆめを成す」

- ・ 明るく、健康的な学校生活を送りながら、やさしさと思いやりの心を育み、夢や希望、目標の実現に向けて、粘り強く努力を積み重ねることができる人材を育成する学校
- ・ 豊成地区の文化継承、新たな文化の発信の中心となる学校

本校の校訓は、校名の文字「豊」と「成」を取り入れ、「こころ豊かに ゆめを成す」とした。統合校名を募集した際、地域住民から「心豊かな子どもを育ててほしい」、「未来に向かって夢をもつ子どもであってほしい」等の声が多く寄せられたことを基に、目指す学校像として作成した。地域に根ざし、地域に親しまれる学校でありたい。

(3) 本校の教育目標（目指す子ども像）

「にこにこ わくわく ぐんぐん！ カッコいい 豊成っ子」

「にこにこ」笑顔で睦み合い、やさしさと思いやりのある言動を身に付け、前向きに生き生きと生活する子ども

「わくわく」お互いの個性を伸び伸びと発揮し合いながら、鍛え合い、磨き合う子ども

「ぐんぐん」健康で、粘り強く学習等に取り組み、友だちのよさを吸収しながら、心身ともに成長する子ども

感謝（感謝の気持ちを素直に表現する） 強み（児童、職員、学校、地域の強みを生かす） 向上心（夢や希望、目標やよりよくなりたいという思いをもつ）を意味する「カッコいい 豊成っ子」を合い言葉に、互いのよさを認め合い、集団の中で自分を高めていくことができるようにしたい。子どもたちが、仲良く楽しく学校生活を送り、たくさんの友だちと鍛え合い、磨き合うことを通し、子どもたちの心・体・学びの成長につなげていきたい。

(4) 教育目標の実現に向けて

- ①学ぶ意欲を高め、「わかる・できる」喜びが味わえる学習指導の改善
 - 楽しくわかる・できる授業の実現と基礎的、基本的な学習内容の定着
 - 表現する力を鍛え、思考力を働かせながら対話し、学びを深め広げる力の育成
 - ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり・環境づくりの充実
 - 子どもの多様な学び方に対応した柔軟性のある効果的な学習の実現

- ②時代の要請に応じた教育を推進するための研修の充実
 - 一人一台端末を活用した学びの質の向上や学び方の習得
 - 教育的な支援を必要とする児童への対応の共通理解と保護者・関係機関との連携
 - 働き方を見直し、長時間労働の改善等に向けた職場環境の改善

- ③ふるさと教育の推進および中仙地区各校・園と連携した教育活動の推進
 - 地域の教育力を生かした教育活動の推進
 - 大仙教育メソッド（中仙中学校区）に基づく校種間連携（小中・小小・幼小）
 - 学校・学年報、PTA学習参観日、学校HP、タブレット等による情報発信と連携

- ④安全教育の充実と危機管理体制の整備
 - 具体的な場面設定と気付きを生かした教職員の高い危機管理意識の醸成
 - 防災（野生動物を含む）、防犯、交通安全に関する学習や訓練の充実
 - PTA、地域の関係機関等と連携した児童の安全確保

(5) 令和6年度の重点および具体的な施策

- ①児童一人一人の居場所づくりのための、学校教育活動の工夫
 - 居場所づくりと絆づくり
 - ・生徒指導の機能を生かした学級づくりや授業実践、様々な活動における絆づくり
 - ・学校生活アンケートや保護者との連絡帳を通じた実態把握と適切な対応
 - 「できた」「わかった」「楽しい」と思える授業づくり
 - ・探求型授業を基にし、ICTを効果的に活用した授業づくり
 - ・友だちの考えを聴いたり、自分の考えを表現したりする学習活動の保障
 - 児童一人一人の共通理解
 - ・組織を生かした対応策の場の設定と実践
 - ・教育的な支援を必要とする児童の保護者・関係機関との連携

- ②ふるさと教育推進のための、特色ある活動の継承および整理
 - ふるさと再発見・ふるさと新発見
 - ・発達段階を踏まえた各学年の学区内フィールドワークの実施
 - 郷土芸能の継承
 - ・円満造甚句、小沼山の詞の継承
 - 地域の人材、教材、施設の活用
 - ・公民館分館と連携した学校教育活動に活用できる地域素材一覧の活用
 - ・学校田活動および水神社清掃

- ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためのICTの活用
 - 目的に応じた学びの質を高めるICT活用
 - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を具体的にイメージした指導計画の作成
 - ・地域・学校や児童の実態に応じた学習活動の工夫改善